

濁流

全・安心なものになっても、自然の驚異は今もなお凄

名森地区

決壊現場である大森地域から流れた濁流は、瞬間に名森地区を飲み込んでいった。災害対策本部があつた役場庁舎1階は、完全に水に浸かってしまった。



昭和51年、9月に発生した大型台風は、九州の南方洋上で勢力を保ったまま停滞した結果、日本各地で長時間に渡り豪雨をもたらしました。同年9月12日の午前5時には墨俣町における長良川の水位は7・14メートルにもなり、下流域でも警戒態勢が取られました。この時、町内の長良川右岸に沿って20カ所近くでガマ（湧き水）が確認されています。警戒にあたっていた消防団員が、大森地内の丸池付近に亀裂が発生しているのを発見。水防工法を行うも、右岸堤が80メートルに渡って破堤。濁流が安八町全域を襲いました。町内に浸入した濁流は、決壊現場の大森地区を飲み込み徐々に広がっていきました。当初は南に向かって勢いよく流れていた濁流は、名



9月13日、決壊箇所北側からの写真
(国土交通省撮影)